

NHO フェローシップ プログラム申請書

1. 研修プログラム名：呼吸器内科プログラム

病院名：東京病院

2. 診療科：(専門領域) 呼吸器内科

3. コースの概要

呼吸器内科にて、結核や抗酸菌症を含む、多様な呼吸器疾患を多数経験する。

4. 目標

呼吸器内科は、感染症、腫瘍性疾患、自己免疫疾患、アレルギー疾患、気道疾患など、多様な症例を診る必要があり、症例数の多い病院で研修することで臨床能力が高まることを期待できる。また、呼吸器内科を目指す医師は、今後もまだ結核に遭遇する機会があるため、標準的でないことが起きた場合の対処法を含めて、結核診療の経験をする必要がある。東京病院は、そのどちらも経験することが可能である。

5. 取得手技

気管支鏡の症例数も多く、サポートを得ながら手技を実施できる。人工呼吸器患者も主治医制で診ているので、呼吸管理についても学べ、経験もできる。局所麻酔下胸腔鏡、気管支動脈塞栓術、右心カテーテルといった特殊な手技も、指導を受けながら経験できる。

6. 研修期間：6 か月

7. 募集人数：1 名

8. 診療科の指導体制

診療科医師数 常勤 20 名

主として研修指導にあたる責任医師：専門医を取得した医師の中から決定

9. 診療科の実績(令和元年 コロナ前の患者数)

主要疾患	入院数(年間)
肺の悪性腫瘍	1159
呼吸器の結核	537
肺炎など	429
間質性肺炎	325
肺結核以外の抗酸菌症	267
誤嚥性肺炎	127
呼吸器のアスペルギルス症	117
慢性閉塞性肺疾患	109
喘息	97
気管支拡張症	81
睡眠時無呼吸	79
肺・縦隔の感染、膿瘍形成	76
気胸	62
心不全	55
胸壁腫瘍、胸膜腫瘍	30
気道出血	26
肺高血圧性疾患	21

10. コンセプト

病棟や外来で症例を経験することと、文献を読んだり、教科書を読んだりして学ぶことの両方ができる環境です。当院の呼吸器内科は、医師数も患者数も多いので、教えてもらうこともできれば、自ら学ぶことも可能です。

11. その他(研修関連情報など)

学会発表は、海外学会も含めて、指導体制、サポート体制が充実しています。